

フォスタリングチェンジ・プログラム 2021年度実施報告



一般社団法人 無憂樹



一般社団法人 無憂樹

はじめに	01
フォスタリングチェンジ・プログラムについて	02
プログラムの概要	03
2021年度実施状況の概要	05
実施報告	
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 北海道	06
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 茨城	07
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 栃木	08
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京	09
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜	10
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨	11
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都	12
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪	13
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口	14
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 高知	15
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 長崎	16
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本	17
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分	18
ファシリテーターフォローアップミーティング	19
プログラムに関する里親の評価	20
総括 2021年度の実践と今後の課題	22

発行 2021年4月
一般社団法人 無憂樹
〒160 - 0023
東京都新宿区西新宿7-4-7 イマス浜田ビル5階
TEL : 03-6869-0192 FAX : 03-6869-0228
MAIL : info@muyuju.org

<http://muyoujyu.com>

はじめに

| 一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹 |

フォスタリングチェンジ・プログラムの報告書は、今回で6冊目、無憂樹が事務局を担当してからは3冊目となりました。1冊目が発行された2016年の報告書からこれまでを見ると、そのプログラムの報告全て1つ1つに実施された機関の皆さん、そして里親さんの思いが詰まっているように感じます。私も実践した時には、フォスタリングチェンジ・プログラム全12回の1回1回に笑いがあつたり涙があつたりと内容の濃いものでした。今回も、通常版12か所、思春期版1か所の合計13か所からそういった思いの詰まった実践を報告していただけ、無事報告書に載せることができました。

2021年度も、昨年度に続き新型コロナの対策の中で、各機関が様々な工夫をしながら各地で実施となりました。また、ファシリテーター養成講座も、残念ながら対面での実施はかなわず、オンラインでの実施となりました。しかし、実施をして2年目となり、オンラインでの実施は単に対面の代替ではなく、時代の要請や地域のニーズに応えるものでもある独自のプログラムでもありうろと考えるようになりました。例えば、オンラインにすることにより、より遠隔地からも参加できるようになったことや、コミュニケーションの幅が広がることにもつながりました。またフォスタリングチェンジ・プログラムをきっかけにインターネットのリテラシーも向上することになり、FCPのみならず研修や相談においてもよりインターネットが活用されることとなり、機関へのアクセスが増えたり利用のしやすさが向上したという側面も聞きます。今やメールやSNSでのやり取りも増え、子どもたちもそのツールを多用するため、インターネットを活かしたプログラムはまさに時代にもあっているのだと思います。

オンラインでの養成講座開催も2年目となると、参加者の方々にも変化がありました。最初は、zoomとは？ブレイクアウトルームとは？ということからの説明でしたが、今やzoomはもちろん、ネットの操作にも慣れておられ、時に高度な操作を知っておられる方がいることも少なくありませんでした。

とはいえ、オンラインでの実施には限界もあります。例えば、どうしてもオンラインですと一方向のコミュニケーションになりがちであったり、雰囲気を感じにくくなったりします。またずっと画面を見続けることは非常に負担ですし、集中力にも影響してきます。やはり人と人とが丁寧に対面がかかわりあうことの大切さを感じざるを得ません。また、トレーナーとしても会って話をしたい、お話を聞きたいという気持ちもあります。実際に、オンラインでは十分には実施できないワークなどもありますので、養成講座中だけでは終わらず、その後に実際に実施している現場に見学に行ったり、または

対面の補講を行うなどして必要なことを補ってもらうようにしています。

コロナ禍においては、精神的ストレスを受けやすく、また精神的不調になりやすいとも言われております。どうしても家庭にストレスなどがかりやすいことが多い社会的養護においては、里親さんの家庭内で負荷が増幅してしまうことがあります。そのため、コロナ禍だからこそ、よりフォスタリングチェンジ・プログラムが求められており、積極的に実施していくことが必要だと思われれます。ですから、オンラインの良いところ、強みを活かしながら、不十分な点や課題を工夫などで克服しながら、進めていくことが必要だと感じています。

フォスタリングチェンジ・プログラムの本国イギリスでも、ファシリテーター養成講座がオンラインで行われるようになり、フォスタリングチェンジ・プログラムのオンラインでの実施もなされています。7月に実施されるコンサルテーション・デイでは、オンラインでの実施についてキャシーとキャララインからお話していただくことになっています。フォスタリングチェンジ・プログラムは12回の内容が決まったプログラムですが、時代や里親の状況に応じていくという意味では、本質的な部分を大切にしながらも、時代や状況のニーズに合わせてこれからも変化成長し続けるのだということができると思います。フォスタリングチェンジ・プログラムの事務局を務めさせていただいている無憂樹も、そういった全国の里親さん、その里親さんを支えるフォスタリング機関を、その時のニーズに合わせてサポートできるよう精進していきたいと思いつつ、この第6回目の報告書をお届けさせていただきたいと思えます。

最後になりましたが、このコロナ禍での状況に非常にご理解いただき、多大な助成支援をいただいている日本財団に深く感謝申し上げます。



フォスタリングチェンジ・プログラムについて

| 早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和宏 |

2016年改正児童福祉法に示された「家庭養育優先原則」を実現するために、2020年度から全国の自治体がそれぞれの計画に沿って新しい社会的養育体制構築に向けて動き始めました。また、2022年度の児童福祉法改正に向けて議論された2021年度社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会の報告書では「里親支援機関(フォスタリング機関)を児童福祉施設として位置づける。これに伴い、里親支援機関(フォスタリング機関)の第三者評価が確実に成されることとする」とされました。これからの社会的養護の主軸となっていくことが期待される里親養育を包括的に支援するフォスタリング機関の設置が全国でさらに加速すると考えられます。里親委託における養育の質をどう担保するかが大きな課題であり、「子どものため」の支援が、子どもにとって最善の成果をもたらすことができるよう、支援や養育の評価や子どもの声を聴くことが一層必要とされています。フォスタリング機関の役割の充実と各里親の養育スキル向上がますます必要とされる状況となっています。

フォスタリングチェンジ・プログラムは、1999年ロンドン・モーズレイ病院の専門家チームによって開発された、子どもが委託されている里親のための研修プログラムです。アタッチメント理論、社会的学習理論に基づき、週1回3時間、里親グループ(6~10人程度)でのセッションを12回実施します。社会的養護下の子どもの抱える課題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解と、それに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの行動の背景にあるニーズに気づき、対応できるようになることを目指します。また、里親の自尊感情や自信を回復する重要性が明示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力点を置きます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後で学ぶことになります。また、実施前の家庭訪問による聞き取り調査やプログラム開始前と終了時の客観的尺度を用いた評価が組み込まれており、さらにセッション毎のアンケートも準備されています。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、ランダム化比較試験(RCT)という信頼性の高い研究方法で、このプログラムの短期的効果についての評価もなされ、効果が確認されています。

日本への導入にあたっては、SOS子どもの村JAPANと福岡市が連携し、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。第1回ファシリテーター養成コースが2016年

3月に福岡市で実施され20人のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からもたいへん好評でした。本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待でき、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かすことができることがわかりました。2017年2月には東京で第2回ファシリテーター養成コースが開催され、同年度中に全国11か所で里親向けプログラムが実施され、およそ70名の里親を対象に実施した評価により、プログラムの効果も確認されました。その後、全国各地でファシリテーター養成コースが開催され、2019年8月には福岡市で日本人トレーナーによる養成コースを初めて実施し、2019年度は全国22か所でプログラムが実施されました。

さらに、現場から要望の多かった思春期版プログラム(12+)についても、2020年度に福岡市で初めて実施しました。新型コロナウイルス感染が拡大する中、当初はファシリテーター養成コースや里親向けのプログラムも中止・延期となりましたが、年度後半からは十分な感染対策を実施しながら里親向けプログラムを対面実施できた地域もありました。また、ファシリテーター向けのフォローアップミーティングをリモートで開催し、その経験も生かしてファシリテーター養成コースと12+養成コースもリモートで開催するようになりました。フォローアップミーティングについては全国からの参加がしやすくなり、参加人数も多く内容も充実し、感染拡大収束後もリモート開催の継続が検討されています。2021年度も新型コロナウイルス感染状況は落ち着かず、対面によるプログラム実施には細心の注意が必要とされる状況が続いていますが、全国13か所でプログラムが実施されています。

前述の通り、全国でこれまで以上に里親養育の質の担保に向けた取り組みが求められており、フォスタリングチェンジ・プログラムの実践はこれまで以上に必要とされるでしょう。プログラムで習得する多くのスキルの中でも鍵となる「アテンディング」では、子どもと養育者が「いっしょにいること・ともにいること」を短時間でも毎日確実に実施します。アテンディングは、子どもにとって大事な時間となり、子どもと養育者の間に「ともにいる」大切な関係が構築されます。里親養育が「子どものために」に留まらず、「子どもとともに」あることができるよう、フォスタリングチェンジ・プログラムには具体的な方法が示されています。里親養育支援に携わる方々と養育者の努力が、子どもにとっての様々な良い変化(成果)につながることを期待しています。

フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 通常版
週1回3時間、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 思春期版
週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気のなかで実施される。

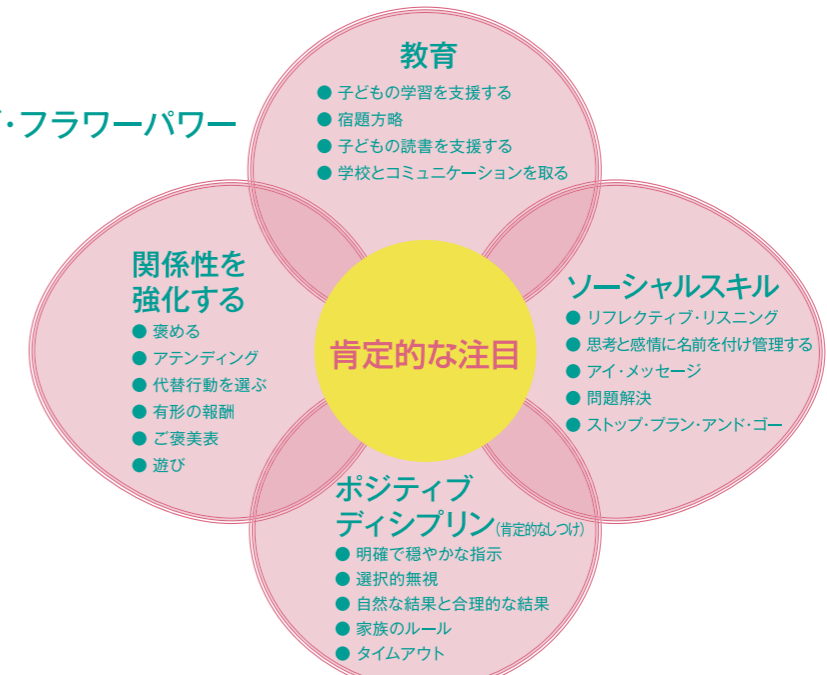
プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つ要素からなっている。

- 通常版
養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**肯定的な注目**」がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
 - ① **関係性の構築**～ほめる、アテンディング(肯定的注目)、代替行動の選択、有形のご褒美、ご褒美表
 - ② **教育**～子どもの学習の支援、宿題方略、子どもの読書を助ける、学校との連携
 - ③ **ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ(私は)メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
 - ④ **ポジティブ・ディシプリン(肯定的しつけ)**～明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト
- 思春期版
養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**ポジティブな世話/注目**」とともに、思春期特性への理解として**アタッチメント**と**レジリエンス(回復力)**がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
 - ① **関係性を強化する**～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
 - ② **教育**～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
 - ③ **ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
 - ④ **ポジティブ・ディシプリン(肯定的しつけ)**～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し既定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どものみを対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

フォスタリング・フラワーパワー (通常版)



フォスタリング・フラワーパワー (思春期版)



2021年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

｜ SOS子どもの村JAPAN/広島国際大学 松崎 佳子 ｜

フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度、福岡と熊本2カ所での実施でスタートしたFCPは、2019年度は、全国22ヶ所での実施と拡がっていました。

しかし、2020年度に引き続き、2021年度も新型コロナに対する対策として各地の研修会やイベント等は、延期や中止をせざるを得ない状況が続きました。その中で、時期の検討や消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより、全国13カ所で開催されました。通常版実施12カ所、思春期版1カ所でした。詳細は、表1及び各地報告をご参照ください。

- ①コロナ対策として、各地域では、会場を広く設置し、換気の徹底、消毒やマスク、距離をとるための机やイスの配置の工夫、アクリル板を設置してのディスカッション、筆記用具等の個別の用意をおこなうとともに、特にFCPで大事にしているおやつについても、個別の配付にしたり、距離をとっての懇談にしたりと、様々な工夫を行っています。
- ②ファシリテーター養成講座は、通常版養成講座(4日間)を9月、2月、3月に、思春期版養成講座(1日)は、通常版を2回以上経験したファシリテーターを対象に3月に実施しました。いずれもオンラインによる実施でした。
- ③ファシリテーターのスキルアップ、質の保証のためのフォローアップミーティングはオンラインにより8月、10月、12月、1月と4回実施しました。

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
高知	4月～7月	4名(養育里親4名)	里親家庭サポートセンター
京都	前期6月～9月	5名(養育里親3名、専門里親1名、養育里親1名)	里親サポートセンター
	後期1月～3月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	
北海道	9月～12月	5名(養育里親4名、ファミリーホーム1名)	里親支援機関
東京	9月～12月	11名(養育里親10名、ファミリーホーム1名)	乳児院
山梨	9月～12月	5名(養育里親5名)	乳児院
大阪	9月～11月	10名(養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組7名)	里親支援機関
山口	9月～12月	7名(養育里親3名、養子縁組2名、施設職員2名)	県子ども家庭課
長崎	9月～12月	4名(ファミリーホーム2名、養子縁組1名、養育補助者1名)	里親育成センター
熊本	9月～12月	6名(養育里親5名、養子縁組1名、)	任意団体
横浜	10月～12月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	里親支援機関
大分	10月～翌1月	7名(養育里親4名、児童養護施設職員1名、児童自立支援施設職員1名、児童心理治療施設職員1名)	県中央児童相談所
茨城	12月～翌3月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	子ども家庭支援センター
栃木	1月～3月	6名(養育里親6名)	里親支援機関

フォスタリングチェンジ・プログラム12+ in 北海道

社会福祉法人常徳会 児童養護施設興正学園 里親支援専門相談員 小野 実佐
社会福祉法人常徳会 興正フォスターサポート てとて 里親トレーナー 佐藤 慧

- 【実施主体】 社会福祉法人常徳会 興正フォスターサポート てとて
- 【実施期間】 2021年9月17日～12月10日(毎週金曜日) 10:00～ 13:30
- 【実施場所】 社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園 図書館
- 【参加里親】 5名(養育里親4名、ファミリーホーム1名)
出席率 97%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名、オブザーバー1名、保育2名



実施状況

当法人里親支援専門相談員による相談支援関係に加えて児童相談所里親担当と協議の上、参加者を選定した。5名の参加者の内、1名は2年前に通常版に参加している。メンバー全員が里親歴6年以上、その内4名が里親メンター経験者という市内でも児童相談所からの信頼が厚い里親である。さらにその内2名は里親歴18年、委託児童20名以上という大ベテランであった。コロナ禍において、対面で心置きなく里親の話ができる貴重な場となった。

プログラム時に工夫したこと

- コロナ禍でソーシャルディスタンスの確保、お茶やお菓子の個別化、共有する文具の消毒など徹底しながら、参加者同士が安心してコミュニケーションをとることができるよう努めた。
- セッション内容の理解を深めるため、それぞれの参加者の日常生活に沿ったテーマ設定でロールプレイを多く取り込んだ。

まとめと課題

- 通常版の経験者がいることで、自らの体験を語ってくれることや効果の実感を言葉でメンバーに伝えてくれることで理解が深まるなど、他のメンバーの参加モデルとなった。
- これまでの支援関係で里親子の経過と共にファシリテーター側が里子について深く理解していることが、家庭での実践の課題設定や振り返り、参加者の知識・スキルの理解の深まりに大きく役立った。
- 参加者がFCPを体験し、これまでの経験に加えてFCPの知識とスキルを獲得することすることで、より充実した里親メンター活動への発展が期待できると感じた。
- 参加者からは、「これから養育していく自信がついた」「こんなにも里子との関係が改善して驚いた」といった声が聞かれ、実際にプログラムの成果が感じられた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 茨城

社会福祉法人茨城県道心園 児童養護施設道心園東ホーム 笹川 寛
社会福祉法人茨城県道心園 子ども家庭支援センター「どうしん」 西野 聡美

- 【実施主体】 社会福祉法人茨城県道心園 子ども家庭支援センター「どうしん」
- 【実施期間】 2021年12月1日～2022年3月16日(毎週水曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人茨城県道心園 子ども家庭支援センター「どうしん」
- 【参加里親】 4名(養育里親3名、養子縁組1名)
出席率95.8%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、オブザーバー1名



実施状況

昨年度は、コロナ禍での実施に不安も大きくプログラムの開催を断念したが、今年度は感染症対策を強化した上で実施。県内全域の対象となる里親家庭へ研修の案内を送り、3組4名の方が参加された。グループのメンバーについては、それぞれのお住いの地域や、これまでの研修参加時に知り合っていた方々が偶然にも集まったことで、和気あいあいとした雰囲気での実施となった。プログラム開始以降、県内の新型コロナウイルス感染者が急増し、各里親家庭の事情も考慮した上で、急遽セッション7、8、9はオンラインでの実施となった。

プログラム時に工夫したこと

県内での新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、プログラム開始後にもセッションの実施を延期したり、急遽オンラインでの実施に変更したりと、都度対応が求められた。そのため、参加された方々へのフォローについては通常以上に細心の注意を払い、丁寧に対応するよう努め、実際に電話やオンラインでのフォローを実施。

また、研修時に提供しているお茶やお茶菓子についてはペットボトル飲料や個包装の物を用意し、事前にラッピングしたものを座席に準備する方法で対応した。



まとめと課題

県内では2018年度に開始して以降5回目の実施となったが、参加人数は毎回4～5名と少人数である。プログラムの内容や良さはこれまでに参加された方々の口コミにより徐々に広がっているが、今後の参加人数の維持や増加への期待と課題を感じている。また、次年度もコロナ禍での実施が予想されるため、感染症対策の更なる強化と共に、ソーシャルディスタンスを保ちながらロールプレイを実施することや、参加者同士やファシリテーターとの親睦を深めることの難しさを強く感じている。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 栃木

栃木フォスタリングセンター 島山 憲夫 赤羽 朋子 島山 由美
児童養護施設きずな 堀江 美景
児童養護施設桔梗寮 伊藤 幸恵

- 【実施主体】 栃木フォスタリングセンター
- 【実施期間】 2022年1月11日～3月29日(毎週火曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 とちぎ福祉プラザ
- 【参加里親】 6名(養育里親6名)
出席率83%
- 【実施体制】 ファシリテーター5名、保育2名



実施状況

ファシリテーターは施設の里親支援専門相談員3名(元相談員1名含む)と里親2名、合計5名で実施した。乳児の託児希望1名があったため、他団体に保育を依頼し、別部屋にて対応した。

プログラム時に工夫したこと

- 毎回セッションの内容を簡単にまとめた「通信」を配布し、その日のポイントと宿題をわかりやすくした。
- セッションの担当は2人でも、他の3人のファシリが自然にその場に溶け込めるように工夫した。
- 音楽を流し、おやつ・飲み物を十分に用意しリラックスした温かい雰囲気作りを心掛けた。
- 手指消毒や換気に気を付け、コロナウイルスの感染対策を徹底した。



まとめと課題

初めての実践のため、5人のファシリが毎回セッション前に1日集まり、シミュレーションを行った。お陰でよいチームワークで本番に臨むことができた。

参加者から、お互いの意見交換の時間を多く持ちたいとか、事例をもっと聴きたい、との要望があったが、時間内に伝えたいことを伝えきるのが難しい時もあった。ファシリテーターが大切な内容をより分かりやすく、実践につながるように伝えるスキルを磨こうと感じた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 二葉・子どもと里親サポートステーション
長田 淳子・宮内 珠希・今福 アカネ・佐藤 裕子

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
- 【実施期間】 2021年9月30日～12月9日(毎週木曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人二葉保育園 法人本部会議室
- 【参加里親】 11名(養育里親10名、ファミリーホーム1名)
出席率 96%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名、スタッフ1～2名(状況に応じて変更)



実施状況

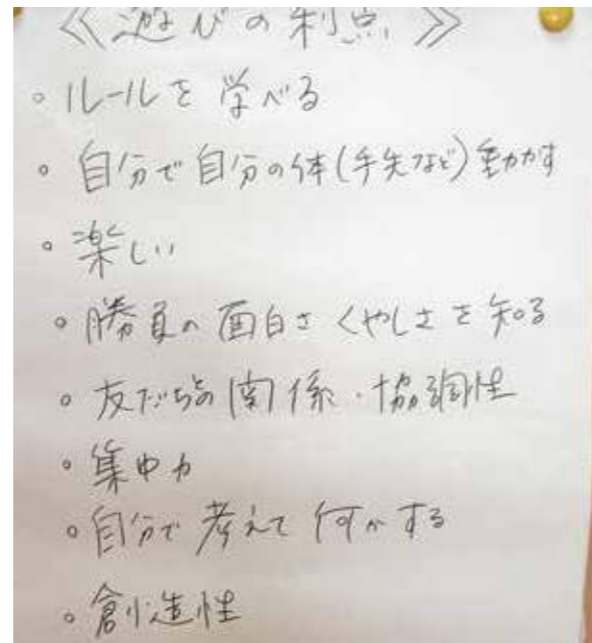
5年目の実施であったが、コロナ禍の緊急事態宣言下に事前訪問の時期となり、オンラインによる事前面接を行った。参加里親のうち、1家庭がFCP12+の受講経験者であった。また、緊急事態宣言が延長したことで、1回分を短縮して、1回あたりの時間数を15分伸ばすことで12セッションを行うこととした。

プログラム時に工夫したこと

プログラムで出てきた用語や方略についてまとめたものをラミネートし、壁に張り出すことで振り返りができるよう工夫した。わかりにくいセッションでは、少し時間をとりながら、それぞれの理解進度に配慮して時間配分を考えた。コロナ感染予防が必須ではあったが、講座3日前からの検温や消毒、換気に配慮し、休憩中の茶菓の提供を行った。

まとめと課題

感染症対策として、中止やオンラインの検討を行ったが、参加者への事前アンケートでも、「集合研修でやってほしい」「このために仕事の調整も行ったので、できるだけ開催してほしい」との意見が多かったこともあり、特例ではあったが、11日間で12セッションを行う形として実施をした。1回減らすことで、家庭での実践への配慮や、プログラムの流れを作ることが難しい点もあった。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜

一般社団法人 こどもみらい横浜

- 【実施主体】 こどもみらい横浜(横浜市委託事業)
- 【実施期間】 2021年10月7日～12月23日(毎週木曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 横浜万国橋会議センター
- 【参加里親】 4名(養育里親3名、養子縁組 1名) 横浜4期生 出席率97%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名
福島里美(こどもみらい横浜:専属臨床心理士)
鈴木昌美(こどもみらい横浜:社会福祉士)
野澤実希(こどもみらい横浜:臨床心理士)
中山貴詞(こどもみらい横浜:社会福祉士)
- 【フォローアップ】 2022年3月3日(木) 10:00～13:00 3期生



実施状況

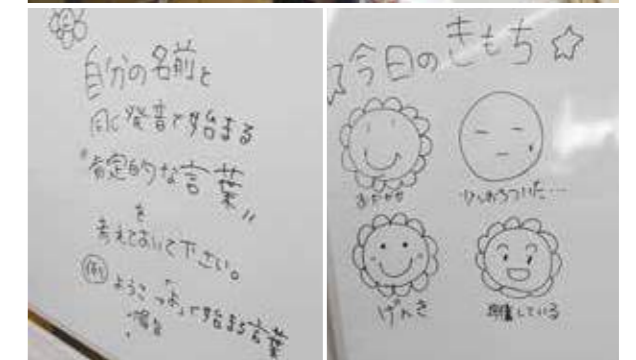
- コロナ禍での感染対策をしながらのセッションではあったが、回を重ねるごとにFCP受講者同士が打ち解け、里親サロンでも話せない内容を共有することができた。
- 各里親の課題に対して、参加者全員が親身になり傾聴する姿勢があり、それぞれの経験からよりよく関わるためのアドバイスをする場面が多く見受けられた。
- FCPのセッションのみでは対応が困難な内容に対しては福島心理士が中心となり、具体的なアドバイスを行うことで寄り添いながら解決に向かうことができた。

プログラム時に工夫したこと

- 感染予防のため、広い会議室の確保、検温、マスクの着用、手指消毒の徹底。
- 困難な課題を抱えている里親に対する対応策について、振り返りの場面で情報交換を行った。
- 明るい気持ちで参加できるように会場の装飾の工夫をした。

まとめと課題

- 昨年同様、参加者が4名と少なかったが、各里親の抱えている課題にじっくりと向き合う時間をとることが出来た。
- 終了間近には、参加者同士での繋がりがとても強くなっており、困難な課題に対し寄り添い話し合える場があることはとても重要なのだと感じた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨

エール里親支援室 大原 恵美子 伊藤 真奈美
中央児童相談所 安留 昭人
くずのはの森 田村 由美子

- 【実施主体】 子育て・発達の里 エール里親支援室
- 【実施期間】 2021年9月17日～12月3日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 山梨県国際交流センター 他
- 【参加里親】 5名(養育里親5名)
出席率92%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名(兼務)、スタッフ1名



実施状況

山梨県においては、今年度で5回目の実施となる。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染状況を鑑みでの協議を重ね、実施時期を決定。何とか無事に走りきることができた。また、令和4年2月18日にはアフターセッションを実施した。

プログラム時に工夫したこと

昨年度に続き、スタッフを含めた参加者の詳細な健康状態の確認、および抗原検査を実施。会場においても、手洗い・消毒・換気の徹底、座席の間隔やロールプレイ時の距離感等の環境整備を入念に行なった。休憩時間の飲食についても、食べている時は話をしない等、参加里親さんにも十分な説明と理解を得ての実施となった。



まとめと課題

長期化しているコロナ禍において、子どもとの関わりも一層深く、濃いものになっている一方で、各種行事や他里親さんとの交流がことごとく中止となり、より孤立した子育てとなっている状況が窺えた。そうした中、少々強行気味であったFCPが里親さんの息抜きの場となり、心の支えになったとの感想が聞かれたことは大きな成果と言える。今後の課題としては幸い、経年の開催が実現しているものの、その分参加里親さんの確保が年々難しくなっていることである。今後は、共働き里親さんも参加しやすい日程の検討などが必要になってくる。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都

社会福祉法人 積慶園/きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点(ほっとはぐ) 武田 由 藪下 聡美

- 【実施主体】 里親サポートセンター青い鳥
- 【実施期間】 前期2021年6月3日～9月30日(毎週木曜日) 9:30～12:30
後期2022年1月11日～3月29日(毎週火曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】 きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点 ほっとはぐ
- 【参加里親】 前期5名(養育里親3名、専門里親1名、養育(現在週末)里親1名) 出席率92%
後期4名(養育里親3名、養育縁組1名) 出席率87%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名



実施状況

本年度は前期と後期に1回ずつ、養育中の里親家庭へ案内送付し、希望のあった里親についてプログラムに参加が適切かどうかを検討した上で参加者を決定した。前期はやむを得ない事情で1人が中断となり4人の修了となった。後期は感染拡大に伴い、中盤を過ぎてやむを得ず一人がリモート(Googlemeeting)で参加する形となったが最後の3回は再びグループに戻り、全員でプログラムを終えられた。(修了は3名)

プログラム時に工夫したこと

前期は、里親種別の違いや実子の有無もあり、参加者がどんなふうにも感じて思っても、何を話しても大丈夫だと思える雰囲気づくりを意識し、それぞれが安心して語りやすい場を提供した。委託後すぐの里親の参加もあり、関係構築の困難さをグループ成員それぞれが、我が事として考え、悩み、また、喜びを分かち合った。後期は、里子の発達年齢の違いや器質的な障害の有無等により、直面する課題は異なるのだが、同じ点についても発見することができ、子どもへの見方に変化がもたらされた。リモート参加の里親の発表やロールプレイ等も工夫しながら実施できたことで、グループとして発展できた。「参加してよかった」と全員から述べられた。

まとめと課題

前後期共に参加者は、それぞれ自分の感情を見つめ、関わり方のヒントを得て実践し、子どもの変化を実感された。困難感や残念感が湧いたときも、グループ全員で意見を出し合い、それぞれから得られた視点を取り入れ、活力に変えていかれた。今後は、プログラムの重要な性質を考慮した上で、リモート参加をどのように可能にしているか、課題である。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪

里親子支援機関えがお 牧野 博子
南河学園 横山 泰直
大阪西本願寺常照園 高橋 宗近

- 【実施主体】 NPO法人 里親子支援機関えがお
- 【実施期間】 2021年9月10日～11月27日(毎週金曜日・土曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 門真市民プラザ
- 【参加里親】 10名 金曜日組6名(養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組3名)
土曜日組4名(養子縁組4名)
出席率97%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ4名、保育1名
- 【フォローアップ】 6月14日、7月24日、12月17日(2019年度及び2020年度修了生)



実施状況

ファシリテーターに、ベテラン里親1名と里親支援専門相談員2名とで開催。スタッフには2019年度及び2020年度修了生3名に入っていたが、事前に本を渡し熟読したうえで対応してもらいました。平日組と休日組と開催日を設け、充実した研修になりました。

プログラム時に工夫したこと

- コロナ禍のなか感染防止のために、折り紙や付箋等の、必要物品はファイルケースにまとめ、それぞれの受講者に配りました。また、ワーク中お菓子のもてなしができない分、毎回のセッション終了後に袋詰めにしたお菓子を配ったり、里子もそのお菓子を楽しみにしているという声も多数聞きました。
- コロナ禍で学校行事が変更になるなど、イレギュラーな用事が発生して当日参加ができなかったため、クロス補講を実施し同じ質の研修を実現しました。受講者にとっては、違う組で研修を受けることで新鮮さを感じたり、刺激をもらったりしたと満足度が高かったです。

まとめと課題

大阪府の協力のもと、平日、休日の両日開催を行うことができました。昨年度の修了生もスタッフで加わっていただき、受講者との交流が盛んになりました。また、昨年度2月～今年度4月にかけて12歳以上のコースも4名の方に実施できました。来年度は大阪府の委託事業として、12歳以下及び12歳以上とそれぞれ実施していく予定です。課題としては実施場所から遠方の地域の方が実施しづらいことが、これまでの実施状況より確認できました。

急遽アンケートを取ったところ、15名ほどの参加希望者がいる地域があり、来年度は希望者が多くいる地域に向向いての実施予定を検討中です。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口

ライクホームはるか 新谷 敏郎
共楽養育園 永吉 敦子
里親養育サポートセンターれりーふ 藤井 有紀

- 【実施主体】 山口県こども家庭課
- 【実施期間】 2021年9月17日～12月3日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 防府海北園 地域交流スペース真
- 【参加里親】 7名(養育里親3名、養子縁組2名、施設職員2名)
出席率95.2%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名(里親支援専門相談員)、オブザーバー2名
- 【フォローアップ】 2021年7月6日(火)、2021年10月5日(火)(2020年度修了生)
2022年3月11日(金)、2022年6月実施予定(2021年度修了生)



実施状況

今回が4回目の実施。これまで同様、運営上の経費は県が予算化し、募集も山口県こども家庭課がおこなった。

山口県では「デルタ株感染拡大防止集中対策」期間が9/26まで延長。開催が危ぶまれたが、ファシリテーターが所属する法人の会場にて、感染防止対策を講じ開催した。

プログラム時に工夫したこと

感染防止対策として、検温、消毒、換気、マスク着用、菓子の個別化。ロールプレイでは、ブロックの使用を折り紙に変更した。

事前訪問等において、受講者を良く知り、抱えている不安などを把握。把握した内容に加え、ファシリテーターとして気がかりな点について、事前の打ち合わせで話し合いプログラム開始までに対応した。

過去の受講者から指摘のあったカタカナ語については、都度、意味を書き掲示した。

セッションの復習と、家族の協力を得ながら家庭での実践に取り組むために、内容をまとめたニュースレターを毎回発行した。



まとめと課題

オンラインでの打ち合わせは、効率が良くなり、またセッションの分担を変更したことで負担軽減と役割の明確化に繋がった。

受講者が聞きやすく理解しやすいように進めていくために、内容を自分の言葉に変えて伝えていくことが今後の課題である。

受講者は、ペアやグループでの討論を楽しみ、フィードバックから多くのことを学んだ。メンバーからの労いの言葉に癒され、開始時より表情が良くなった受講者もあり、グループの力を感じた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 高知

高知聖園ベビーホーム 楠瀬 理歩
里親家庭サポートセンター 利岡 亜衣

- 【実施主体】 高知聖園ベビーホーム 里親家庭サポートセンター結いの実
- 【実施期間】 2021年4月11日～7月19日(毎週月曜日) 13:00～16:00
新型コロナウイルス感染防止のため、2週間中断した。
- 【実施場所】 高知聖園ベビーホーム北館
- 【参加里親】 4名(養育里親4名)
出席率93%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、オブザーバー1名



実施状況

2020年度は個別に声掛けをしたが参加者が集まらず開催できなかったため、今年度は未委託里親も含め、全里親を対象に案内を送付した。その結果、「現在は未委託だが、開催頃には委託される予定であるため参加したい」「前回案内のあった日程では難しかったが、今回は参加できる」という里親からも連絡があり、4名の参加者で開催することができた。

プログラム時に工夫したこと

新型コロナウイルス感染防止のため、飲み物は蓋の閉まる容器で持参してもらい、個別包装のお菓子をラッピングして提供した。途中からは参加者の要望も参考にして、長机を一人一台用意し、参加者同士の距離を保ちながら、間にパーテーションを設置し、感染対策に努めた。

また、カタカナの用語について、質問が出たり覚えにくいという意見があり、第11回の復習のセッション時にカタカナ用語集を作成し、配布した。

セッション終了後の様子伺いで訪問した際に、FCP参加の様子をまとめたアルバムを渡すと喜んでくれた。アルバムを見て振り返りながら、フォローアップセッションを楽しみにする様子や、「時々FCPで学んだことを思い出している」という声が参加者より聞かれた。

まとめと課題

新型コロナウイルス感染防止のため、席の配置や飲食物の提供の仕方が変わり、参加者同士の距離が縮まるのに時間を要するのではないかと心配だったが、大きな問題は見られなかった。

養育への困り感を抱える里親に対して、結いの実の心理士や相談支援員と連携し、FCP以外のところでも里親家庭へのフォローが出来るよう配慮した。

最終回では、参加者それぞれから養育に対する前向きな言葉が聞かれた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 長崎

光と緑の園 向陽寮 田添 貴子
光と緑の園 乳児院 三浦 奈利子
児童養護施設 マリア園 田川 亜希
児童養護施設 聖母の騎士園 福島 真由美

- 【実施主体】 長崎県里親育成センター すくすく
- 【実施期間】 2021年9月22日～12月15日(毎週水曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 長崎県里親育成センター すくすく おひさまハウス 研修室
- 【参加里親】 4名(ファミリーホーム2名、養子縁組1名、養育補助者1名)
出席率90%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名、スタッフ2名
里親支援専門相談員ローテーションで2名



実施状況

4月の里親育成センターの年間計画を立てる時点で他の研修と調整しながら日程を決定した。1歳～12歳の子どもを養育している里親に文書を送付した。3名の申し込みがあった。また施設員の参加を検討していたため保育室の補助員に声をかけた。コロナ禍の為、追加の募集は行わなかった。

プログラム時に工夫したこと

家庭での実践を説明した人が、次のフィードバックを担当しベテランファシリテーターと新米ファシリテーターが順番に交代した。また、高次脳機能障害の方のフォローに1名。配布物や記録を担当する1名担当した。セッション前日には4名でリハーサルを行った。お菓子は一人ずつラッピング、お茶はペットボトル、フェイスガード利用、使用する道具も各自で分けケースに準備、保管した。



まとめと課題

今回の参加者は施設職員、FH事業者、縁組里親と幅が広く、それぞれ意欲が高い方が多かったためセッション初めから積極的な発言が多かったが、横の繋がりを作るうえで共感性が低く難しい面があるように見えた。養育の立場が違う人の養育観の共有や伝え方をもっと検討していかなければならないと感じた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

養育家庭支援センターきらきら 田中 一幸
フォスタリング機関アグリ 田頭 倫子
特定NPO法人優里の会 池上 里美

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジ・チーム熊本
- 【実施期間】 2021年9月30日～12月16日(毎週木曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 フォスタリング機関アグリ/ZOOM
- 【参加里親】 6名(養育里親5名、養子縁組1名)
出席率 99%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー3名



実施状況

今年度は、新人ファシリテーター3名(Zoomでの養成研修受講生)に、ベテランファシリテーター3名がオブザーバーとして開催。セッション1とセッション12は対面で行い、残りのセッションはZoomで行った。Zoomではグループの親和性を中々感じることができなかったが、セッション12を対面で行った時に、グループとしても確立し、親和性も高まっていたと感ずることができた。

プログラム時に工夫したこと

1. ファシリテーターは同じ会場に集合し、パソコン4台を共同ホストに設定した。
2. ファシリテーターとは別に補助職員としてZoomの操作担当職員1名を配置した。
3. フリップチャートは、パワーポイントを活用。事前にスライドを作成。
4. ベテランのファシリテーターがチャットを活用し、いつでもプログラムの内容について助言をして頂くような体制をとった。
5. 参加者に対してZoomの使い方について事前にレクチャーを行った。
6. ブレイクアウトルームには必ずそれぞれのルームにファシリテーターが入った。

まとめと課題

今回、Zoomでの開催ということ、また、新人トレーナーがメインでプログラムを行ったということで、事前の準備にとっても時間をかけた。そのことで、大きなトラブルもなく、比較的スムーズにプログラムを終えることができた。ただ、参加者の中にはネット環境の問題で内容が途切れたり、ロールプレイの難しさもあり、全ての参加者に内容がしっかり伝えられたのかという点において自信はないが、アンケートや評価からは満足できたという意見が多かった。また、参加者からは対面をとっても楽しみにされている方もいらっしや、コロナの状況も考慮しながら、対面での回数を増やすなど柔軟な対応も検討する必要もあった。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分

乳児院栄光園 本庄 公多子 松井 美穂
児童家庭支援センター「和」 山本 さやか
児童養護施設小百合ホーム 御手洗 隆史

- 【実施主体】 大分県中央児童相談所
- 【実施期間】 2021年10月15日～2022年1月20日(毎週木・金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 大分県中央児童相談所
- 【参加里親】 7名(養育里親4名、児童養護施設職員1名、児童自立支援施設職員1名、児童心理治療施設職員1名)
出席率97%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名、スタッフ3名

実施状況

当初、9月から12月までの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、10月からの実施となった。里親だけでなく施設にも広く参加を呼びかけ、計7名が参加した。感染予防に注意を払いながらプログラムを進め、無事12回のプログラムを終えることができた。最終日の修了証書授与式には、県こども・家庭支援課長、児童相談所長も出席し、児童相談所長より参加者に修了証書を授与した。

プログラム時に工夫したこと

感染予防に留意し、飲み物はペットボトルのものを、おやつは一人分ずつラッピングしたものを用意した。マイク使用時にはその都度消毒した。オミクロン株の感染急拡大の際には、会場の換気・消毒を徹底し、参加者やファシリテーター、スタッフは二重マスク着用、加えてファシリテーターがフェイスシールドをつける等、十分な感染対策を行った。

まとめと課題

養育里親だけを対象にしても参加者が十分に集まらないことがある。このような時には、養育里親以外の参加者まで幅を広げて募ることが今後もあり得る。今回も養育里親以外の参加者を含む形で実施し、結果的に児童福祉の異なる職域で働く参加者の交流の機会ともなっていた。ただ、養育里親以外の参加者が含まれる場合やFCPの設定とは異なる年齢の児童を対象とする場合、どこまでプログラムに融通を持たせることが可能か、諸先生方や事務局にご相談しながら進めて参りたい。



ファシリテーター フォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全て「オンライン」で、計4回開催されました。

オンライン開催

- ▶ **第一回目 2021年7月8日** 参加者24名
参加地域：栃木、神奈川、新潟、長野、三重、鳥取、広島、山口、高知、福岡、大分、沖縄
- ▶ **第二回目 2021年9月13日** 参加者11名
参加地域：北海道、栃木、新潟、三重、広島、福岡
- ▶ **第三回目 2021年11月22日** 参加者12名
参加地域：岩手、栃木、千葉、福井、山梨
- ▶ **第四回目 2022年1月24日** 参加者28名
参加地域：岩手、千葉、東京、京都、大阪、和歌山、広島、山口、福岡、長崎、熊本

参加者ご感想

- 他地域でのFCPの取り組みを伺うことが出来て良かった。
- 実施報告や他事業所の状況報告が聞けたことで、これから実施する不安が軽減した。
- 他機関での具体的な悩みや課題に対し先生方の回答を知ることができた。
- 実施状況を映像で見ることができれば良かったなと思う。
- 疑問や悩みが共有できてよかった。
- 皆さんの活動を知ること、自分たちの活動方針が見えて良かった。
- 他機関の実施の状況、オンライン、ホローアップ研修の様子を知ることができた。
- 新しい取り組みや、やってみたいことが具体的にわかった。

考察

今年度も、昨年と同様にコロナ渦で対面が難しくオンラインでの開催講座が主となりましたが、皆さまも同様にオンラインでFCPを行う機会が増え、取り組み方や悩みを抱えておられた、それらを含めオンラインで共有することの重要性は大きく、具体的な問題の解消に繋がったという声が多く寄せられた。社会の傾向としてオフラインもオンラインもどちらも需要のある時代に変化している、さまざまな環境の変化にも柔軟に対応しながら挑戦していければと料する。

コンサルテーションデイ

2022年3月に開催予定だった本年度のコンサルテーションデイは、残念ながら新型コロナウイルスのため開催延期となりました。

プログラムに関する里親の評価

プログラム終了後、計13か所(北海道、茨城、栃木、東京、横浜、山梨、京都、大阪、山口、高知、長崎、熊本、大分)の受講者80名に対して、調査を実施致しました。

◆最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つまで回答可。回答者80名)

スキル名	回答数
●アテンディング	42名
●効果的に褒める	35名
●選択的視野	35名
●アイ・メッセージ	28名
●リフレクティブ・リスニング	26名

◆子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった ⇄ 5:大変よくなった)

実施場所13か所の合計	対象児(回答者78名)	平均点	4.1点/5点満点
実施場所13か所の合計	きょうだい児(34名)	平均点	3.6点/5点満点

関係性

- 一緒に何かをする時間、向き合う時間が増えた ●以前より、甘える部分としっかり頑張る部分がでてきた
- 少ない声掛けで場面の切り替えが出来るようになった ●家族のルールを守るようになった
- 怒りをぶつけ合うような関係性から、できることを認め、喜び、笑いあえるようになった

感情調整

- 意見を通したくて大泣きしていたが減ってきた
- 今日あった出来事などを、自分の感情を含めて話ができるようになった
- なせトラブルが起きるのかを考え直すようになった ●イライラを言葉で表現できるようになった
- 褒められることが嬉しいと感じるようになった ●噛みつくことが減り、顔の表情が少し柔らかくなった
- 好きな人や好きな遊びができ、大切にしたい物を大切にできるようになった

行動

- 後片づけができるようになった、遊具を譲れるようになった ●外でもちゃんと挨拶が出来るようになった
- 経験のないことにチャレンジするようになった ●約束事が守れるようになった
- 自分の課題を認め、改善の努力をするようになった
- 「ありがとう」の言葉が出てきた

学校

- 自ら宿題が始められるようになった ●学校での具体的な内容など、いろいろと話せられるようになった
- 学習能力が向上した ●気分が乗らない時も学校に行くようになった

その他

- 朝食が目標の時間までに終わるようになった ●睡眠の導入が良くなった ●わざと反対のことをしなくなった
- 抱っこやスキンシップを求めることが増えてきた
- 言われたこと注意されたことを「面倒」だと言いつつもやってくれるようになった ●表情が穏やかになった

◆里親と里子の関係性(5段階評価 1:とても悪い ⇄ 5:とても良い)

実施場所13か所の合計(回答者71名) 平均点 4.4点/5点満点

- 一緒に何かをすることが増えました、絵本を読む、料理、遊びなど
- 自身も子どもも主張するところ、譲るところがはっきりしてきた、相手の意思や存在をより尊重するようになった
- 言い合いが減り、落ち着いて対応できるようになった
- 目をみて話せられるようになった
- 自分の意志や考えをふれずに伝えられるようになった
- 肯定的な注目をすることで先入観がなくなった、褒めることで信頼関係ができた
- 「注意」することはあっても怒ることがなくなったので、子どもの方から話かけてくれることが多かった
- 以前よりも安心して接してくれるようになったと感じる、気持ちを遠慮しないで言ってくれることが増えた

◆里親としての感じ方への影響

内省

- 気付けなかった視点を与えてもらい、心に余裕ができたと思う。●自分自身の愛情、熱意、努力、冷静さを高めたいと思った。●子どもを一人の人間として尊重しながら接していこうと改めて思いました。
- 自分自身の自己肯定感につながり自信がもてるようになった、自分が穏やかでいられることで家族も穏やか&笑顔になった気がします。

変化

- 今までとは違った角度からのアプローチの仕方、スキルが身についたことで幅が広がりました子どもたちに接する態度に変化があった。●知らずに出来ていたことがあったり、間違えて指示していたことがあったり、自分と子どもとの付き合い方を客観的に見れるようになった。●里親としてだけでなく、養育という点を深く考えるようになった。
- 子どもとの関わり方にくつものスキルを得たことで、子育てをする上での考え方、肯定的な話し方を知ることができた。
- 感情や威圧ではなく、話し合いで解決するようになった。

自信

- 養育する上での心構えが一段とできた。
- 里親として自信をなくしていたので、里子との関係性向上に良い影響を受けた。
- 想定内を増やせたことで、何があっても対応方法はあるし、リカバリーができる程度にはなれると思えた。
- 自分の養育は間違っていないと少し自信をもてた。

仲間

- 他の里親さんとの会話のやり取りの中で、気づかされたことが多かった。●他の方の課題設定やその取り組みはとても助けになった。●みんな里親として悩みや苦労を持っている、話を聞くことで心にゆとりが出来た。
- 学ぶ機会が増え、仲間との交流も役に立った。

◆家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか(複数回答可)

回答者(76名)	回答数
a.全く役に立たなかった	0名
b.コースに参加することに自信が持てた	19名
c.里親として支援されていると感じた	51名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに興味があるとわかった	34名
e.その他(自由記述)	10名
<ul style="list-style-type: none"> ●里親子はそれぞれ違った問題を抱えていると思う、個別に話を聞いていただけることは自分にあった勉強ができると思い安心した。 ●不安もあったがファシリテーターの方と始まる前に話ができ安心した ●子どもに会ってもらえることで想像上ではない里子を知ってもらえることができ、自分のことを知ってもらえた気がして緊張が少しなくなった ●難しかったらどうしよう、終わりまで付いて行けるか不安だったが、面接をして頂き不安がなくなりました ●モチベーションに繋がった、課題を明らかにして参加できた。 ●子どものことに関して考え、言葉にする時間が持てた ●今、自分が何を学びたいのかが明確になった。 	

2021年度の実践と今後の課題

| 広島国際大学・SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子 |

フォスタリング・チェンジプログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度、福岡と熊本2ヶ所所での実施でスタートしたFCPは、2019年度は、全国22ヶ所での実施と拡がっていましたが、2020年度に引き続き、2021年度も新型コロナの対策のため、延期、中止をせざるを得ない地域もある状況となりました。その中で、消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することで、13ヶ所で実施されました。通常版実施12ヶ所、思春期版1ヶ所でした。

ファシリテーター養成については、2019年度より日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座を実施することができるようになっていますが、2021度はすべてオンラインによる養成講座(4日間)を開催しました。また、思春期版のファシリテーター養成講座(1日)もオンラインで実施しました。ロールプレイなど対面式のなかで培われていくFCPの質をどのように保証できるかが大きな課題ですが、オンラインによる研修も回を重ねるなかでかなりスムーズに実施できるようになりました。その日の評価や修了時のアンケートでは、対面実施時とそれほど変わらない感想をいただいています。しかし、質の担保のため、初めて実施を予定している地域機関の方については、養成講座を受講後、近隣の地域の実施時に見学し雰囲気等の体験をすることを条件に受講していただいています。今後、さらにFCPのもつ人と人の繋がり、温かさ、親近感を体験できるよう工夫していく必要があると思います。今年度は、県単位で数か所のフォスタリング機関、児童家庭支援センターなどから養成講座受講希望があり、FCPがさらに各地で拡がっていくのではないかと期待されます。

ファシリテーター養成講座をオンラインで実施できたことにより、各地域での里親さんへのFCP実施についても、オンライン使用が可能かどうか、対面との組み合わせ等により実施の可能性が拡がるのではないかなど、その実現性について検討しましたが、まだ実施には至っていません。今年度延期になったため、2022年度に実施予定しているキャシー&キャロラインによるコンサルテーションデイにおいて、英国ウェールズにおけるオンラインによるFCP実施について指導していただく予定です。

ファシリテーターフォローアップミーティングは、すべてオンラインにより4回実施しました。ファシリテーターには1回は受講を推奨していますが、いずれのミーティングも定員いっぱい申し込みがあり、オンラインであることから参加しやすいものとなっていると思われます。

今後も全国各地で実施されるFCPが質の保証された研修であるためには、ファシリテーター養成後の質の保証が必須であり、さらにシステムづくりとネットワークを構築していくことが必要と考えています。

各県でフォスタリング機関が設置されてきています。リクルートから認定研修、マッチング、委託後研修・支援が一貫した体制で実施できるようになりますが、トータルした機関よりもリクルートと研修などいくつかを担当する機関も多いようです。里親の増加は、里親支援と共に推進される必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPは、それらに対して里親自身が自ら工夫し取り組むことを支援する研修です。里親委託後研修として位置づけられ、各地でさらに実施されることを願っています。

FCPの日本導入及び実施に関し、多大な助成支援をいただいている日本財団に感謝申し上げます。

